Ⅷ　麦をめぐる情勢について

ホクレン農業協同組合連合会

1．平成29年産民間流通麦について

（1）生 産 概 要

作付面積は、小麦121,600ha、大麦1,720ha、収穫量は小麦608,000トン、大麦6,720トンとなり、前年産と比較して小麦83,700トン増加、大麦940トン減少となりました。

麦種	29年産		28年産	
	作付面積(ha)	収穫量(t)	作付面積(ha)	収穫量(t)
小麦	121,600	608,000	122,900	524,300
二条大麦	1,720	5,780	1,690	6,720

（資料：農林水産省　作物統計）

（2）入 庫 状 況

秋播き小麦については、播種期の天候不順により、当初作付予定面積を下回る実作付けとなりましたが、春先以降の生育は比較的順調に推移し、地域・銘柄間での差はあるものの、概ね販売予定数量並みとなる100.7%の入庫となりました。

春播き小麦については、収穫時期の低温・降雨の影響等により、販売予定数量を下回る81.6%の入庫となっております。

【ホクレン扱い分】

銘柄	当初契約数量(t)			共計入庫数量(t)	差引(t)	比率	1等比率
	入札	相対	計(A)	(B)	B−A	B/A	
きたほなみ	126,980	307,650	434,630	443,017	8,387	101.9%	99.2%
キタノカオリ	2,520	5,881	8,401	6,728	−1,673	80.1%	99.1%
ゆめちから	14,350	33,471	47,821	45,268	−2,553	94.7%	82.8%
つるきち		1,109	1,109	616	−493	55.5%	51.2%
秋播き小麦　計	143,850	348,111	491,961	495,629	3,668	100.7%	97.6%
ハルユタカ		2,706	2,706	2,731	25	100.9%	93.5%
春よ恋	11,910	31,309	43,219	34,743	−8,476	80.4%	61.7%
はるきらり	1,460	3,967	5,427	4,426	−1,001	81.6%	98.1%
春播き小麦　計	13,370	37,982	51,352	41,901	−9,451	81.6%	67.6%
小麦　計	157,220	386,093	543,313	537,529	−5,784	98.9%	95.3%
大麦		488	488	527	39	108.0%	0.0%

（3）品 質 状 況

秋播き小麦については、前年産と同様、タンパク値が高い傾向にあります。

春播き小麦については、収穫期時期の低温・降雨により、春よ恋においてF.N.が前年産より低くなっております。

【小麦の４項目品質状況（加重平均値）：ホクレン扱い分】

銘柄	容積重(g/l)		F. N. (sec)		たんぱく値(%)		灰分(%)	
	29年産	28年産	29年産	28年産	29年産	28年産	29年産	28年産
きたほなみ	854	851	410	414	11.8	11.8	1.46	1.44
キタノカオリ	858	852	422	313	13.4	12.7	1.71	1.63
ゆめちから	847	834	458	427	13.9	14.1	1.67	1.65
つるきち	849	851	446	424	13.7	12.4	1.82	1.79
ハルユタカ	840	832	350	287	13.4	13.0	1.74	1.68
春よ恋	843	848	368	425	12.9	12.1	1.73	1.64
はるきらり	853	858	381	394	12.4	12.1	1.70	1.63

【主要銘柄のランク別比率：ホクレン扱い分】

銘柄	A	B	C	D	計
きたほなみ	442,053	494	470	0	443,017
	99.8%	0.1%	0.1%	0.0%	－
ゆめちから	42,186	2,507	556	19	45,268
	93.2%	5.5%	1.2%	0.0%	－
春よ恋	33,616	1,082	10	34	34,743
	96.8%	3.1%	0.0%	0.1%	－

（4）販 売 状 況

受渡進度につきましては、前年産のパン・中華めん用小麦の不作や、北海道産小麦の単独使用比率の増加に伴い、引取りが慎重になっていることから、前年産を下回って推移しております。

一方で、今後の受渡進度については、前年産在庫の消化が進んでいることを受け、緩やかに回復する見込みとなっております。

【民間流通麦の販売状況：29年12月末】：系統扱い分

		当初契約数量(t) ①	入庫数量(t) ②	比率 ②/①	12月末受渡数量(t) ③	進捗状況 ③/②
全国	29年産	811,096	808,269	99.7%	131,411	16.3%
	28年産	785,179	707,512	90.1%	128,355	18.1%
	差引(29-28)	25,917	100,758	—	3,057	—
北海道	29年産	543,313	537,529	98.9%	87,346	16.2%
	28年産	509,466	471,497	92.5%	89,801	19.0%
	差引(29-28)	33,847	66,032	—	▲ 2,455	—

（5）価格の事後調整【小麦のみ】

平成29年産民間流通麦の価格の事後調整については以下のとおりとなっております。

【平成29年産民間流通小麦の流通期別価格】

銘柄	入札形成価格	平成29年8月～平成29年9月流通分	平成29年10月～平成30年3月流通分
		変動率	変動率
	①	①×96.4%	①×99.8%
きたほなみ	49,751	47,960	49,651
キタノカオリ	46,675	44,995	46,582
ゆめちから	46,443	44,771	46,350
つるきち	46,443	44,771	46,350
ハルユタカ	75,000	72,300	74,850
春よ恋	50,892	49,060	50,790
はるきらり	44,688	43,079	44,599

2．平成30年産民間流通麦について

（1）需 給 状 況

①　全　国（小麦）：全農＋全集

平成30年産の民間流通麦については、平成29年産と比較して販売予定数量が約11,000トン減少し、購入希望数量が約5,000トン増加したため、需給の逆ミスマッチは平成29年産より拡大し、約46,000トン発生しております。

【民間流通小麦の販売予定数量および購入希望数量】

区分＼項目	販売予定数量(t)			購入希望数量(t)			販売と購入の差(t)		
	30年産	29年産	30−29	30年産	29年産	30−29	30年産	29年産	30−29
全国	834,319	845,673	▲ 11,354	880,281	874,823	5,458	▲ 45,962	▲ 29,150	▲ 16,812
北海道	563,352	568,674	▲ 5,322	568,328	573,470	▲ 5,142	▲ 4,976	▲ 4,796	▲ 180

②　北海道（小麦及び大麦）：ホクレン＋北集

平成30年産の日本めん用小麦につきましては、販売予定数量約451,600トンに対して、購入希望数量が約445,900トンとなり、需給のミスマッチが約5,700トン発生する状況となりました。

また、パン・中華めん用小麦につきましては、春よ恋やはるきらりにおいて、需給のミスマッチが確認されているものの、ゆめちからについて、需給の逆ミスマッチが約9,900トン発生しており、パン・中華めん用小麦全体では約10,700トンの需給の逆ミスマッチが確認されました。

【銘柄別販売予定数量および購入希望数量】

銘柄	販売予定数量(t)	購入希望数量(t)	差引(t)
	(A)	(B)	A−B
きたほなみ	451,639	445,928	5,711
日本めん用　計	451,639	445,928	5,711
キタノカオリ	5,884	8,590	▲ 2,706
ゆめちから	52,320	62,240	▲ 9,920
つるきち	1,083	1,850	▲ 767
ハルユタカ	2,703	3,170	▲ 467
春よ恋	44,776	44,050	726
はるきらり	4,946	2,500	2,446
パン・中華めん用　計	111,712	122,400	▲ 10,688
小麦　計	563,351	568,328	▲ 4,977
大麦	505	632	▲ 127

（2）入札及び価格状況

①　全　国

平成30年産の価格については、価格の事後調整の仕組みにより、前年産の入札にて形成された価格に入札実施時点の変動率（平成29年９月時点の変動率96.4％）を乗じた価格を基準価格として、値幅制限±10％にて入札を実施した結果、基準価格対比108.1％となりました。

また、大粒大麦（二条大麦）については基準価格対比106.6％となりました。

【入札結果（全農＋全集）】

麦種	上場数量(t)	落札数量(t)	落札残(t)	基準価格 (A)	指標価格 (B)	基準価格対比 B/A
小麦	218,500	210,560	7,940	45,929	49,652	108.1%
二条大麦	6,880	6,340	540	46,350	49,430	106.6%

②　北海道（ホクレン＋北集）

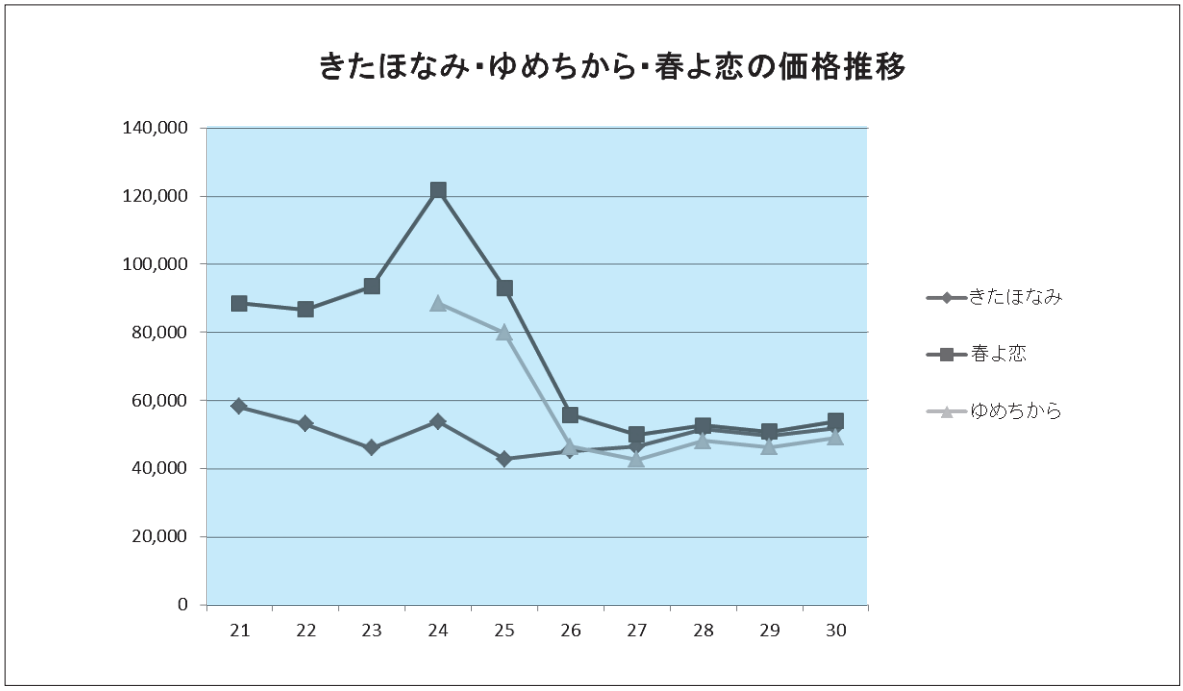
「きたほなみ」をはじめとした５銘柄約164,000トンを上場しました。「きたほなみ」については、基準価格対比108.4％で落札されたものの、競合するASWの価格と比較して割高感がある影響で買い控えがあったことに加え、硬質系小麦に入札が集中したことから落札残が発生しました。パン・中華めん用小麦については、引き合いの強い状況が反映され、全量落札されました。

【銘柄別入札結果：ホクレン＋北集】

銘柄	上場数量(t)	落札数量(t)	落札残(t)	申込倍率	基準価格 (A)	指標価格 (B)	基準価格対比 B/A
きたほなみ	131,650	126,720	4,930	1.0	47,960	51,989	108.4%
キタノカオリ	1,710	1,710	0	3.6	44,995	49,494	110.0%
ゆめちから	15,700	15,700	0	3.9	44,771	49,248	110.0%
春よ恋	13,430	13,430	0	2.6	49,060	53,966	110.0%
はるきらり	1,480	1,480	0	1.1	43,079	47,227	109.6%
小麦　計	163,970	159,040	4,930		−	−	−

【民間流通麦の銘柄別価格推移】

銘 柄	年産									
	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産
きたほなみ	58,230	53,154	46,078	53,855	42,872	45,291	46,543	51,635	49,751	51,989
キタノカオリ	64,445	62,217	68,003	88,642	72,891	57,017	51,323	48,438	46,675	49,494
ゆめちから				88,642	79,961	46,587	42,747	48,197	46,443	49,248
つるきち							(42,747)	(48,197)	(46,443)	(49,248)
ハルユタカ	(88,580)	(86,790)	(93,604)	(122,013)	(93,157)	(75,000)	(75,000)	(75,000)	(75,000)	(75,000)
春よ恋	88,580	86,790	93,604	122,013	93,157	55,884	50,107	52,815	50,892	53,966
はるきらり	(88,580)	(86,790)	(93,604)	(122,013)	88,086	47,424	42,504	46,377	44,688	47,227
大麦	40,638	42,670	36,270	36,270	(37,322)	(39,039)	(40,952)	(42,754)	(45,191)	(48,174)



3．輸入麦の情勢について

（1）輸入麦売渡制度

政府により買付・輸入された外国産麦を国内実需者へ売渡制度については、平成19年４月（平成21年10月改訂）より、過去の一定期間の国際穀物相場や為替の動向に連動して売渡価格が変動する「相場連動制」による売渡が実施されております。

【輸入麦の政府売渡制度】

価格改定回数	年２回（４月、10月）
改定価格の算定方法	価格改定月の２ヵ月前から遡って６ヵ月間の政府買付価格を加重平均し、マークアップ・港湾諸経費を加算して算出

（2）国際小麦相場の状況

産地間での作柄に差異はあるものの、世界全体の生産量が消費量を上回る状況が続き、期末在庫率も前年度を上回っておりますが、為替の影響から10月買付以降の政府買付価格は横ばいとなっております。

○政府買付価格推移　　単位：円／トン（税抜）

	29.10月入札分（29.12月積）	29.11月入札分（30.01月積）	29.12月入札分（30.02月積）
５銘柄加重平均価格	33,072	33,012	32,607
ASW（オーストラリア産日本麺用）	34,027	33,048	31,681
１CW（カナダ産パン用）	35,187	35,996	34,934

（3）輸入麦政府売渡価格推移

政府売渡価格については、平成28年10月期まで下落して推移していたものの、それ以降は上昇基調にありました。上述の通り、平成29年10～12月の政府買付価格は横ばいとなっていることから、今後の入札状況にもよりますが、現行価格からの大幅な変動は無いものと見込まれます。

○政府売渡価格推移

輸入麦政府売渡価格（5銘柄加重平均）	平成27年10月期	平成28年４月期	平成28年10月期	平成29年４月期	平成29年10月期（現行価格）
	52,444	48,713	44,880	46,935	48,620

4．安全・安心な麦への取り組み

（1）目　的

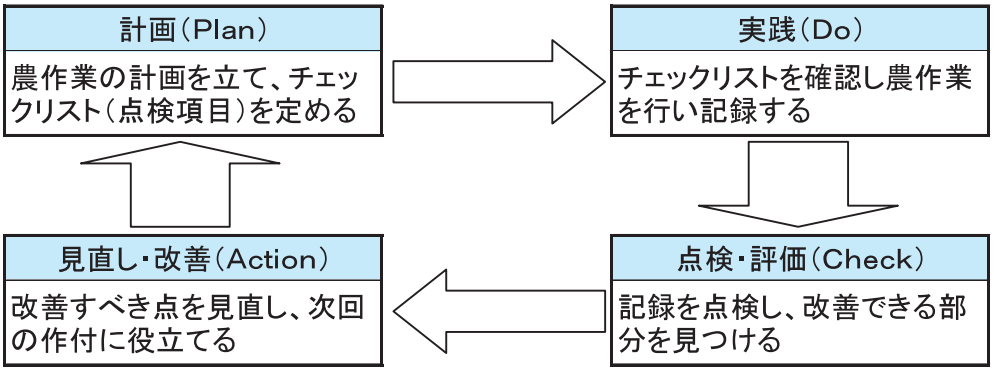
食品の安全と消費者の信頼を確保するため、麦類の生産工程管理、GAP（農業生産工程管理）的手法の更なる周知を徹底することが重要です。

■農作業の生産工程管理（GAP的手法）■

農作業ごとに、安全な農産物を生産するための管理ポイントを整理しまとめたものです。

農業生産の現場において、生産工程ごとに想定される危害とそれに対応したリスク管理措置をリストアップし、リストに従って確実に実施・記録したうえで、より適切な生産方法に見直していくことを繰り返すことがGAP的手法の取組みです。

＜PDCAサイクル＞



（2）麦類における危害要因と対応策等

危害要因	対応及び防止対策など
かび毒	DON検査の実施 ⇒品位等検査前に分析し、暫定基準値以内となった小麦を民間流通麦として販売・流通 □かび毒汚染防止対策 ・適切な防除の周知徹底 ・赤かび病発生圃場の別収穫及び保管管理
残留農薬	農薬取締法を遵守した生産と食品衛生法に基づく出荷・流通 ⇒通常検査（1JA1品種1点）及びポジティブリスト制対応のモニタリング検査の実施 □基準値以内への生産に向けて ・農薬の適正使用 ・ドリフト対策（周辺圃場**＜特に水稲作付圃場＞への農薬飛散防止**） ・農薬使用後の散布器具洗浄の周知徹底
異種穀粒	特に、そばの混入防止対策 ⇒アレルギーの原因となることから、混入防止対策の周知徹底 □混入防止対策 ・機械（コンバイン、乾燥機など）清掃の周知徹底 ・施設（サイロ、ベルトコンベヤーなど）清掃の周知徹底
異　物	異物（虫、鼠、石、ガラス・金属・プラスチック片など）の混入防止 **【特に、虫の混入発生事例が多くなっており、更なる混入防止対策の周知徹底】** ⇒食品安全上問題となることから、混入防止対策の周知徹底 □混入防止対策 ・収穫・乾燥及び調製工程における選別作業の徹底 ・保管時での現物確認による保管管理の周知徹底及び出荷時での現物確認の周知徹底 ・保管容器、運搬車両、乾燥調製施設、選別機械及び作業者の衛生管理での周知徹底

（3）ポジティブリスト制度施行

食品衛生法の改正により、ポジティブリスト制度が平成18年５月から施行され、全ての農薬などに残留基準が設定されております。このことにより、従来は残留基準がなかった農薬に対しても国際基準等を参考に基準値が設定されましたが、その残留基準が設定できない場合は、0.01ppm（１億分の１）という厳しい一律基準が適用されております。

【農薬の飛散による影響】

例えば、自分の圃場で使用している登録農薬が飛散して、その農薬が隣の圃場の違う作物に付着してしまい、またその農薬が隣の圃場の作物に登録がなく一律基準（0.01ppm）となっている場合、その作物から0.01ppmを超過した残留農薬成分が検出されると食品衛生法違反となり、違反をするとその作物は出荷停止・回収されることになります。

【ちょっとした不注意が、莫大な費用発生と産地の信用を失墜させる事態に発展します】

（4）平成29年産 麦類の通常検査（１JA１品種１点）結果

北海道産麦取扱基本方針に基づき、ホクレン食品検査分析センターにおいて、残留農薬自主検査を実施し、麦類の安全性を確認するとともに、分析結果を活用し農薬の適正使用を推進しております。

通常検査における適用外（登録外）農薬の検出事例

【原　因】 ⇒ 農薬の飛散

Ⅰ．水稲いもち病を防除した際、隣接における収穫間際の麦圃場に飛散した。

Ⅱ．豆類・野菜等の菌核病を防除した際、隣接における収穫間際の麦圃場に飛散した。

【対　策】

水稲のいもち病薬剤に使用される成分は、麦類の残留農薬基準値が、一律基準（0.01ppm）であることから、特に注意が必要となります。

また、豆類・野菜等に使用される成分も検出事例があることから、収穫前における麦（特に、春播小麦）圃場の周辺生産者への注意喚起が必要であり、更なるドリフト防止対策が重要です。

（5）より一層の農薬飛散防止及び農薬適正使用に向けた取り組み

① 地域と一体となり対策を検討し、みんなで確認を行い、農薬飛散防止に係る意識を一層高めます。

Ⅰ．隣に他の生産者の圃場がある場合は、生産物の収穫日と農薬の散布予定日を確認します。

Ⅱ．周りに収穫直前の作物がある場合は、農薬の散布日を変更します。

Ⅲ．防除対象圃場に隣接したハウスがある場合は、ハウスの側面を閉めてから防除します。

② 農薬使用上の注意事項

Ⅰ．ラベル表示を確認し、ラベルに記載された適用内容を確認します。

Ⅱ．散布できる作物を確認し、使用量、使用時期、使用総回数を守ります。

Ⅲ．農薬は、整理整頓して保管し、残農薬および空容器を適正に処理します。

③ ドリフト防止の注意事項

散布しようとする作物以外に農薬がかからないよう最善の努力をします。

⇒風のない(朝夕の風のない)時を選んで散布
農薬飛散の最大の要因は風です。

⇒散布機の圧力は適切に
圧力が高すぎると細かい粒子が発生し、飛散しやすくなります。

⇒適切なノズルを選びましょう
一般的なノズルは薬液の粒子が小さく、浮遊し飛散もしやすいので、ドリフト低減ノズルに切替えることも効果的です。

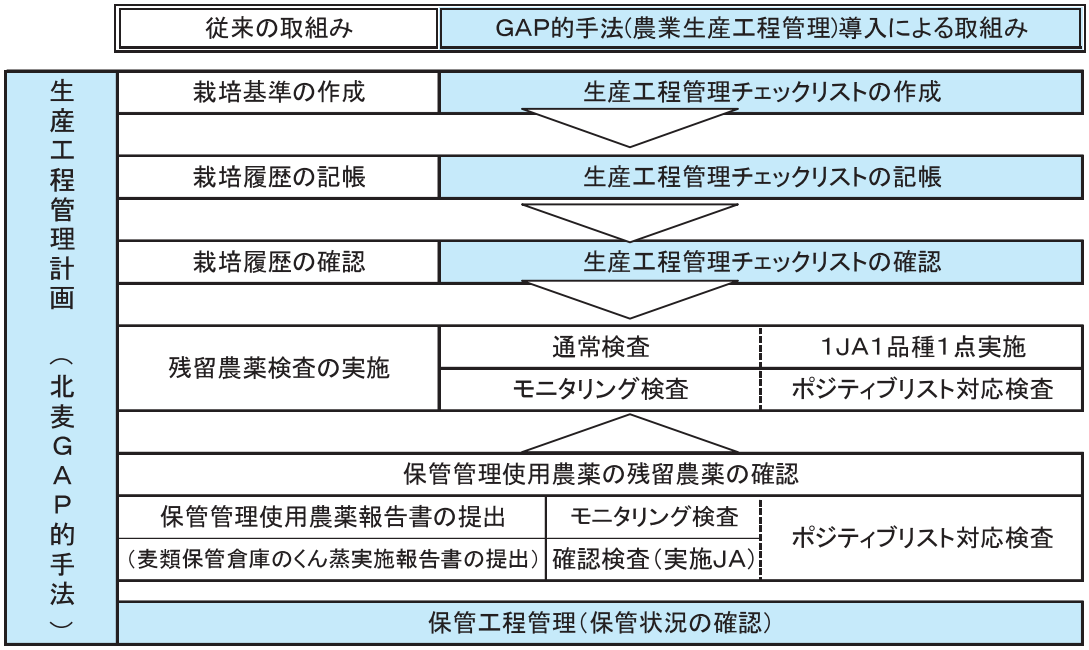
⇒散布の位置と方向に注意
農薬は対象とする作物だけにかかるよう、できるだけ作物の近くから散布します。

⇒散布量は適切に
散布量が多くなるほど飛散する場合も増えます。

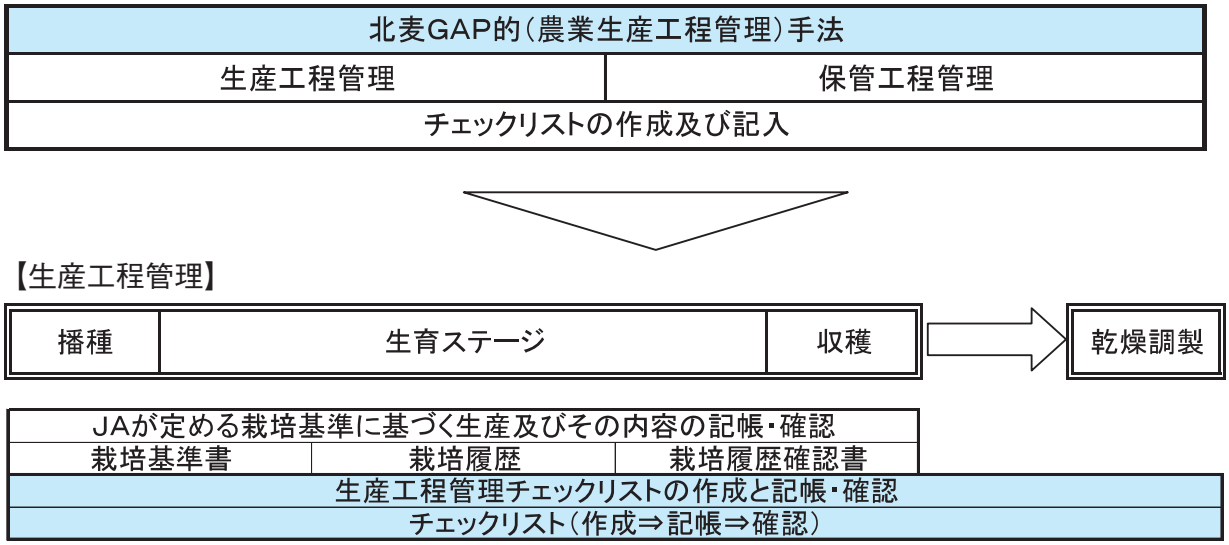
⇒散布機の洗浄を丁寧に
前回使用した農薬が残っていると、登録外の農薬が収穫物に残留する危険性があります。

（6）生産工程管理におけるチェックリスト生産者・JA用は、別紙の参考資料に記載されております。

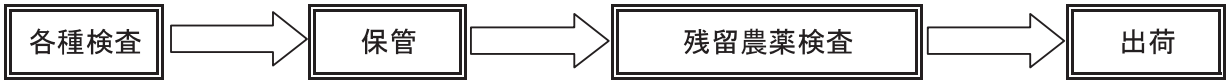
＜麦類の安全確保に向けた取組み＞



＜生産工程管理の取組みイメージ＞



【保管工程管理】



民間流通麦として流通するための検査				ポジティブリスト制に対応するための検査	
DON検査	成分検査	品質検査	品位等検査	通常検査	モニタリング検査
品質状況の確認（保管中における保管管理、出荷時の現物確認など）					
生産（保管）工程管理チェックリストの作成と記帳・確認					
チェックリスト（作成⇒記帳⇒確認）					

【参　考　資　料】

1．ランク区分評価基準及び品質評価項目、基準値及び許容値一覧表

【ランク区分評価基準】

ランク区分	評価基準		
	基準値	許容値	その他
A	3つ以上達成	全て達成（容積重を除く）	
B	2つ達成	全て達成（容積重を除く）	
C	1つ達成	全て達成（容積重を除く）	
	2つ以上達成	未達成	
D	全て未達成		
	1つ達成	未達成	
	－	－	雑銘柄麦、異なる銘柄の混合麦

【品質評価項目、基準値及び許容値】：小麦及び大麦

■日本めん用：きたほなみ、きたもえ

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	9.7%以上11.3%以下	8.5%以上12.5%以下
灰分	1.60%以下	1.65%以下
容積重	840g／ℓ以上	－
フォーリングナンバー	300以上	200以上

※低アミロース品種（きたほなみ）の「たんぱく」の許容値は8.0%～13.0%

■パン・中華めん用：ゆめちから、キタノカオリ、春よ恋、ハルユタカ、はるきらり

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	11.5%以上14.0%以下	10.0%以上15.5%以下
灰分	1.75%以下	1.80%以下
容積重	833g／ℓ以上	－
フォーリングナンバー	300以上	200以上

■大粒大麦：りょうふう

評価項目	基準値	許容値
容積重	709g／ℓ以上	－
細麦率	2.5㎜（篩）下に3.0%以下	－
白度	40以上 基準歩留：55% 農産物検査時から一ヶ月経過したサンプル	37以上
正常粒率	80%以上（65%歩留時） 1.8㎜（篩）上（砕粒を除く）	70%以上

2．生産工程管理チェックリスト（生産者用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（生産者用）

農協名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿農業協同組合

生産者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生産工程		取組内容 No.	取組内容 内容	評価 実施	評価 未実施	評価 該当せず
基本事項		1	当年のチェックリストを読み理解しましたか。	□	□	
		2	農協等から配布された栽培暦・栽培基準等を読み理解しましたか。	□	□	
		3	生産履歴の記帳を行い、保管していますか。	□	□	
		4	作業日誌、肥料・農薬等の管理台帳を作成し、購入伝票とともに保管していますか。	□	□	
		5	農薬等は適切な場所に保管し、期限切れ農薬や、不要となった農薬・廃液は適切に処分していますか。	□	□	
		6	生産資材は、整理・整頓して保管し、適切に処分していますか。	□	□	
		7	使用済プラスティック等の廃棄物は、適切に処分していますか。	□	□	
		8	食品安全ＧＡＰや環境規範といった食の安全・安心に関する研修会に参加していますか。	□	□	研修会がない □
圃場準備		9	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか。	□	□	
防除		10	農薬・除草剤は、農協等が定める栽培基準などに基づき薬剤を選定し、使用量・散布時期を守って使用しましたか。	□	□	
		11	農薬を使用する際には、農薬ラベルの記載内容を確認しましたか。	□	□	
	ドリフト対策	12	農薬飛散リスクを把握する観点から、周辺圃場からの農薬飛散に注意し、飛散の可能性がある場合は、ＪＡに情報提供をしましたか。	□	□	
	ドリフト対策	13	農薬の散布時は、事前に散布器具に不具合がないか点検し、風速・風向を確認してから、適正な散布圧力・風量で行いましたか。	□	□	
	ドリフト対策	14	飛散低減ノズルへの交換や、強風時には農薬散布を行わないなどの飛散防止対策を実施しましたか。	□	□	
	ドリフト対策	15	作業終了後に使用した機器（ｽﾌﾟﾚｰﾔｰ・薬液ﾀﾝｸ）・計量器・防護具などの洗浄を行いましたか。	□	□	
		16	赤かび病の適期防除に努めましたか。	□	□	
		17	農薬使用の収穫前日数の確認を行い、適切に処置しましたか。	□	□	
播種作業		18	種子は更新種子を用い、品種名を確認しましたか。	□	□	
		19	種子消毒は、ＪＡが指導する薬剤を用い、使用回数・使用量等を守って行いましたか。	□	□	
栽培管理		20	定期的に圃場を巡回し、作物の生育状況に応じた対応を取っていますか。	□	□	
		21	肥料（基肥・追肥）は、ＪＡが指導する施肥基準及び施肥方法に基づいて適切に施用しましたか。	□	□	
		22	施肥にあたっては、タンパク含有量がランク区分の基準値内になるよう、栽培基準等に基づき効率的に行いましたか。	□	□	
収穫作業		23	ＪＡの指導に基づいた適期収穫を行いましたか。	□	□	
		24	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を分けて収穫しましたか。	□	□	被害なし □
		25	異品種の混入がないように、品種ごとに機械の清掃を行いましたか。	□	□	1品種のみ □
		26	コンバインが小麦と他の穀類（特にそば）で共用の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。	□	□	共用なし □
		27	収穫後、麦わらの野焼きは行わず適正な処理を行いましたか。	□	□	
乾燥施設	共同施設	28	共同乾燥施設の搬入計画に従った収穫・搬入を行いましたか。	□	□	
	共同施設	29	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を仕分けして搬入しましたか。	□	□	被害なし □
	個人施設	30	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか。	□	□	
	個人施設	31	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか。	□	□	
	個人施設	32	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を仕分けして搬入しましたか。	□	□	被害なし □
	個人施設	33	施設が小麦と他の穀類（特にそば）で共有の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。	□	□	共用なし □
	個人施設	34	収穫後、速やかに規定水分まで乾燥させましたか。	□	□	

3．生産工程管理チェックリスト（JA用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（JA用）

農協名　　農業協同組合

生産工程		取組内容		評価・実施率		
		No.	内容	実施	未実施	実施率
基本事項		1	食品安全GAP、北海道の病害虫防除基準、環境規範、前年度の記録をもとに栽培暦・栽培基準を見直し、生産者に配布・周知しましたか。	□	□	
		2	栽培暦・栽培基準の周知状況。			%
		3	生産履歴の記帳実施率。			%
		4	作業日誌、肥料・農薬等の管理台帳の記録・保管の実施率。			%
		5	農薬等の保管管理、期限切れ農薬や不要農薬・廃液の適切な処分の実施率。			%
		6	生産資材の適切な処分の実施率。			%
		7	使用済みプラスティック等の適切な処分の実施率。			%
		8	食品安全GAPや環境規範といった食の安全・安心に関する研修会を開催しましたか。	□	□	生産者の参加率 %
		9	生産工程管理チェックリストの提出率。			%
防除		10	気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行い、農薬の使用基準を確認して指導を行いましたか。	□	□	
		11	農薬・除草剤の適切な使用状況。			%
	ドリフト対策	12	飛散可能性のある農薬を特定し、周知を図りましたか。	□	□	
	ドリフト対策	13	散布器具の点検や農薬散布時の風速・風向の確認等の実施率。			%
	ドリフト対策	14	飛散低減ノズルへの交換や、強風時には農薬散布を行わないなどの飛散防止対策の実施率。			%
	ドリフト対策	15	農薬散布に使用した機器・計量器・防護具などの洗浄実施率。			%
		16	赤かび病の適期防除に努めるよう指導を行いましたか。	□	□	
		17	赤かび病の適期防除実施率。			%
		18	農薬使用の収穫前日数の確認と適切な処置実施率。			%
播種作業		19	種子更新や品種確認などによる銘柄確保の実施率。			%
		20	適切な種子消毒の実施率。			%
栽培管理		21	生育時期や品種に応じた適切な施肥基準・施肥方法について指導を行いましたか。	□	□	
		22	適切な肥料の施用実施率。			%
収穫作業		23	圃場ごとの収穫適期調査に基づき、適期収穫の指導を行いましたか。	□	□	
		24	適期収穫の実施率。			%
		25	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦の仕分け収穫実施率。			%
		26	品種ごとの機械の清掃実施率。			%
		27	小麦・その他穀類（特にそば）共用のコンバインがある場合、清掃の実施率。	共用なし □		%
		28	麦わらの適正な処理実施率。			%

4．生産工程管理チェックリスト（JA施設用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（JA施設用）

農協名　　農業協同組合

生産工程	取組内容		評価		
	No.	内容	実施	未実施	該当せず
基本事項	1	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか。	□	□	
	2	作業機械・施設の整理整頓・清掃を適時実施していますか。	□	□	
	3	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか。	□	□	
	4	施設内に小動物や昆虫が侵入・発生しないよう対策を取っていますか。	□	□	
	5	施設が小麦とその他穀類（特にそば）で共用の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。	□	□	共用なし □
集荷 原料貯蔵	6	乾燥調製施設の能力に応じた搬入計画を立て利用者に周知し、それに基づいた受入を行いましたか。	□	□	
	7	受入時に品種の確認を行いましたか。	□	□	
	8	受入前に生産履歴の内容について確認を行いましたか。	□	□	
	9	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦は仕分けして受入を行いましたか。	□	□	被害なし □
乾燥・調製	10	受入後は速やかに規定水分まで乾燥させましたか。	□	□	
	11	乾燥調製作業の温度管理は適切に行いましたか。	□	□	
	12	乾燥調製に係る各作業日誌を作成し、保管していますか。	□	□	
検査	13	残留農薬検査を行いましたか。	□	□	
	14	DON検査を行いましたか。	□	□	
	15	農産物検査を行いましたか。	□	□	
保管	16	保管中の品質状況の確認を行うよう作業者に徹底されていますか。	□	□	
	17	保管中の在庫品の水分を把握し、品質の保持に努め、記録を保管していますか。	□	□	
	18	保管中の在庫品について、穀温のチェックを行い、記録を保管していますか。	□	□	
	19	ハードコンテナやフレコンにて保管を行っている在庫品については、外観のチェックを行い、記録を保管していますか。	□	□	ｻｲﾛ保管のみ □
	20	保管中に定期的なローテーションを行うなど、品質の保持に努めていますか。	□	□	ｻｲﾛなし □
出庫	21	出荷前に現物確認や、出荷施設の点検・確認を行い、記録を保管していますか。	□	□	
	22	出庫はオーダーに基づいて行い、出荷時にオーダーと現品の確認を徹底していますか。	□	□	
	23	出荷時に現物確認を行うよう作業者に徹底されていますか。	□	□	
	24	出荷後の追跡調査ができるよう、記録を整備していますか。	□	□	

5．小麦の生産状況と用途別需要状況

（1）小麦の作付面積と生産量推移（全国及び北海道）

（単位　面積：千ha、生産量：千トン）

項目＼年産		H 1	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
全国	面　積（千ha）	284	209	208	207	212	209	210	213	213	214	212
	生産量(千トン)	985	882	675	568	742	855	806	849	1004	778	905
北海道	面　積（千ha）	130	116	116	116	119	119	122	123	123	123	122
	シェア（％）	46	56	56	56	56	57	58	58	58	57	57
	生産量(千トン)	503	542	399	345	497	582	528	550	731	514	608
	シェア（％）	51	61	59	61	67	68	66	65	73	66	67

（資料：農林水産省　作物統計）

（2）道産小麦品種別の作付面積推移

（単位：千ha）

品種＼年産	H 1	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
きたほなみ	－	－	7	30	104	106	98	92	91	91	87
ホクシン	－	104	97	74	1	0	－	－	－	－	－
きたもえ	－	1	1	1	1	1	1	1	1	1	－
きたさちほ	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
チホクコムギ	79	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ホロシリコムギ	38	1	1	1	0	0	－	－	－	－	－
タクネコムギ	3	1	1	1	1	－	－	－	－	－	－
タイセツコムギ	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キタノカオリ	－	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2
ゆめちから	－	－	－	－	－	1	7	13	12	11	12
つるきち	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1
ハルユタカ	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
春よ恋	－	7	7	7	7	7	9	11	12	13	13
はるきらり		－	－	1	1	1	1	2	1	1	1
合　計	130	116	116	116	117	118	118	122	121	120	117

※ラウンドの関係により合計が一致しない場合があります。　（資料：ホクレン調べ）

【奨励品種決定年次】

年　次	品　種　名	年　次	品　種　名
昭和49年	ホロシリコムギ、タクネコムギ	平成12年	きたもえ、春よ恋
昭和56年	チホクコムギ	平成15年	キタノカオリ
昭和60年	ハルユタカ	平成18年	きたほなみ
平成２年	タイセツコムギ	平成19年	はるきらり
平成６年	ホクシン	平成21年	ゆめちから
		平成24年	つるきち

6．輸入小麦の実績

（1）国別輸入量

単位：千トン

	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度
アメリカ	3,257	3,046	2,242	2,877	2,327
カナダ	1,322	1,208	1,441	1,484	1,747
オーストラリア	1,033	971	844	877	848
その他	4	4	6	7	7
計	5,616	5,229	4,532	5,245	4,929

（資料：農林水産省）

（2）年度・銘柄別実績

単位：千トン

銘柄	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
DNS（ダークノーザンスプリング） アメリカ産パン、中華めん用	1,507	1,246	877	1,245	850
HRW（ハードレッドウインター） アメリカ産パン、中華めん用	880	980	727	855	790
CW（ウェスタンレッドスプリング） カナダ産パン用	1049	1,037	1,228	1,258	1,527
ASW（オーストラリアスタンダートホワイト） オーストラリア産日本めん用	911	870	759	794	737
WW（ウェスタンホワイト） アメリカ産菓子用	867	820	610	775	683
一般輸入計	5,214	4,953	4,201	4,927	4,587
PH（プライムハード） オーストラリア産中華めん用	122	101	83	83	84
DRM（デュラム） カナダ産パスタ用	272	170	210	222	219
SBS輸入計	398	271	293	305	303
計	5,612	5,224	4,494	5,232	4,890

（資料：農林水産省）